JICA 教師研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	玉井　彩郁	学校名	長野県 中野市立　高社中学校
担当教科等	英語・総合	対象学年（人数）	２年　２組（３６名）
実践年月日もしくは期間（時数）		２０２２年１２月１日～１２月９日（６時間）	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語（英語）、総合

2. 単元(活動)名：クルド難民問題

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：「　Share what you learn about the Kurds.　」

単元目標：国際理解・国際協力について学びを深め、身近な話題として捉えることができる

関連する学習指導要領上の目標：

・国際理解・協力について理解を深め、身近な課題として捉えることができる。

・関連資料を読み取り、課題解決に必要な知識を身につけることができる。

・グループでの意見交換を通じて、課題への理解を深め、自分事として捉えることができる。

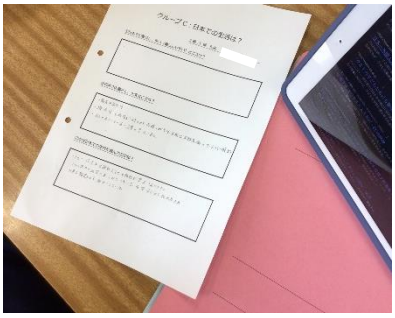
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	・教科書の内容を踏まえたうえで、クルド難民について、図書館やインターネットから資料を探し、自分なりにまとめることができる。 ・学んだことを振り返り、その知識を課題解決に結びつけることができる ・ＳＤＧｓに関連した、日本をはじめ世界にある問題や課題を見つけ、伝えることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	・クルドや、難民問題についてわかったことを自分たちの言葉でまとめることができる。 ・国際理解、国際協力において、一方的な援助ではなく、相互的な協力が重要だと理解できる。 ・ジグソー法を活用したグループ活動で、一人ひとりが今回の単元について、理解を深めることができる。
	③学びに向かう力、主体的に学ぶ力	・クルド難民問題に焦点をあて、生徒自らが主体的に調べ学習ができる。 ・相手の意見や考えに耳を傾け、受け止めたうえで、自分たちの思いを伝えることができる。 ・自分たちが調べたことや、クルド人大学生との対話を通して学んだこと、感じたことをまとめ、発表ができる。

5. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	**【単元設定の理由】** ウクライナ情勢や北朝鮮のミサイル発射、地球温暖化など世界では日々様々な問題や変化が起きている。教科書では、様々な国の歴史や文化、生活や SDGs に関わる話題なども扱われている。しかし、生徒自身が外国へ行き実際に目で見たり、国外の諸問題について当事者から話を聴いたりするという経験はほとんどない。 今回は日本とトルコの関係についての学習から始まり、現在のクルド難民問題につなげていく。 生徒には国際理解・国際協力の視点で、一方的な援助だけではなく、お互いがどのような援助を必要としているのか、そのニーズを知ったうえで相互的な協力が必要ということに気づいてほしいと思い、この単元を設定した。

	【単元の意義】 世界には支援を必要とする国や人々が多く存在している。しかし、支援をする側が一方的に活動を行っている場合も少なくない。お互いに必要としている支援、ニーズを知ることや、その地域自体を知ることで生徒一人ひとりの国際理解の第一歩につなげてほしいと願う。 **【児童／生徒観】** 本学級の生徒は、世界で起きている問題や話題を遠い外国のことだと捉え、自分たちにはあまり関係がないことだと考える生徒が多いように見える。 また、SDGs の活動に関連して何か支援を考える際、『してあげる』という考えを持つ生徒が多いように見受けられる。 英語の授業では、積極的な発言がみられ、言語活動や個人・グループワークに積極的に取り組む姿が多く見られる。 **【指導観】** 授業では、個人・グループの疑問や意見・考えを大切にしながら、活動中も生徒の発言を積極的に拾うよう心がけている。 また、文法説明や教科書の内容理解など、インプットの授業のあとは、ペア・グループで活動を行い、身につけた知識をアウトプットできるような時間を設けている。 本単元では、ジグソー法を用いて知識をアウトプットすることで、より深い知識の定着を図る。 生徒同士の対話の時間を多く設け、一人ひとりの考えや意見を拾いやすい環境を作る。

6. 単元計画（全 6 時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	国際理解・国際協力ってなに？ 世界の課題を知ろう （英語）	教科書の物語を読み、感想や考えを共有し、トルコを始めとする他国や世界情勢について関心をもつことができる。 国や民族同士で協力することでより良い世界が作れる半面、多くの課題があることに気づく。 関連して、ウクライナ情勢, 北朝鮮のミサイル発射、環境問題など、世界にある様々な問題に気づくことができる。	・“What did you think about this story?” 教科書の物語「Friendship beyond Time and Borders」を事前課題として読み、感想、考えたこと、気づいたことなどを共有する。 ・“What kind of country is Turkey？” “What kind of problems are there in the world? What problem do you know?” 教師の２つの問いかけに対し、自分たちの知っていることを発言する。 ・トルコに関連して、クルド難民という問題について資料を見ながら学習を進める。	教科書 Reading2「Friendship beyond Time and Borders」 トルコに関連した写真 世界の様々な課題に関連した写真

２～３	What kind of people are the Kurds? （英語） ジグソー法でクルド難民について理解を深めよう！ （総合的な）	前時で学んだクルド難民について振り返り、その内容も踏まえながら調べ学習をすることができる。 グループごとの調べ学習を通して、クルド人とはどのような人々か、難民とはどのような人々かなどについて理解を深めることができる。 情報共有がしやすいA/B、C/D間で中間課題に取り組み、各テーマにはつながりがあることを確認する。	①前回の学習内容も踏まえ、クルドの人々について生徒個人で考えてみる。 （書籍等も参考にする。） ②グループ（A～Dの４つのエキスパートチームに分かれ、テーマごと調べ学習を行う。 **A：難民とはどのような人々？** **B：クルド人の国はどこ？** **C：日本での生活は？** **D；トルコやクルドの文化は？** **↓エキスパートチーム用ワークシート**  **↓エキスパートチームでの活動の様子** ③２グループごとで中間課題に取り組む。 **≪A/B テーマ：国土を失ったクルドの人々はどのように生活しているのか≫** **≪C/D テーマ：クルドの文化を守りつつ、日本で生活する上で困難なこと≫** ↓中間課題に取り組む様子	各参考資料

		中間課題で出した考えや、エキスパートチームで得た情報を基に最終課題に取り組むことができる。	 ④ホームグループに戻り、全体の課題解決に向けた話し合いを行う。 **≪最終課題：私たちにも可能な支援とはなにか≫** ⑤活動の中で、疑問に思ったこと、調べても分からなかったところをまとめる。	
4～5	大学生への質問を考えよう （英語）	相手の現状や気持ちに配慮した質問や話し方を考える。	①ホームグループごとに、クルド人の大学生にどんなことを質問したいか考える。 ②各グループ１つは聞けるようにする。 ③質問の仕方を練習する（話し方・代表者など。）	生徒が考えた質問の中でNGな内容のものがあれば、適宜声掛け・指導していく。
6	クルドの人々について理解を深めよう。 （英語）	実際にクルド人大学生と対話をし、彼らの現状について知る・理解する。	①クルド人大学生からの話を聴く。 ②グループ１から、順番に質問をしていく（ほかのグループの質問中は静かに聴く。 ③話を踏まえたうえで、ホームグループでもう一度最終課題に取り組む。 **≪最終課題：私たちにもできることは？≫**	

7. 本時の展開（６時間目）

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （５分）	【導入】 ・ホームグループに分かれ、活動の流れを聞く。 『グループ１から質問し、終了後に各グループで再度まとめをしてください。』 ・自分たちの考えた質問などを再確認。 ・大学生へ挨拶。	本時の流れについて、生徒たちに確認を十分行う。	

展開 (25 分) まとめ (20 分)	【展開】 ・大学生からの話を聴く。 ・最後に質問があるグループは順に質問していく。 【まとめ】 ・実際に聞いた話・資料から読み取ったことを踏まえて、再度グループ内で情報をまとめる。 ・最終課題≪私たちにできることはなにか？≫に取り組む。 ・授業の振り返りシートを記入。 今回の授業を通してわかったこと、学んだことを記入する。		大学生講師が用意した資料(PPT) ワークシート (感想記入用紙)

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

≪グループ活動での評価≫

・自分の意見を持ちつつ、他者の意見や考えを尊重できるか。

・探究活動（ジグソー法）における友人との関わりの中で、共に考えることの良さに気づき、協力して課題解決に取り組んでいるか。

・最終課題において、答えのない問いに対し、グループで考え意見交換ができているか。

≪個人での評価≫

・ワークシートの記述から、生徒の理解度や意欲・関心について評価する。

・今回の授業では、答えのない問いについて考える機会が多くあるため、記述内容だけではなく、生徒一人ひとりが「なぜそう考えたのか」という理由も含めて評価する。

9. 学習方法及び外部との連携

・クルド文化教室

・JICA 東京

来年度は学校内でもクルド人を始めとした難民問題、日本や世界の課題について学習する機会を増やしていきたい。

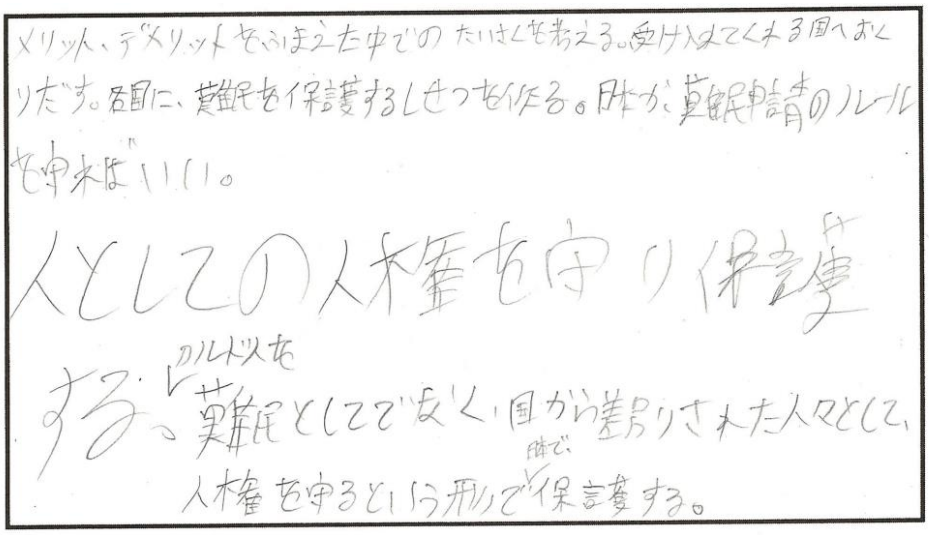
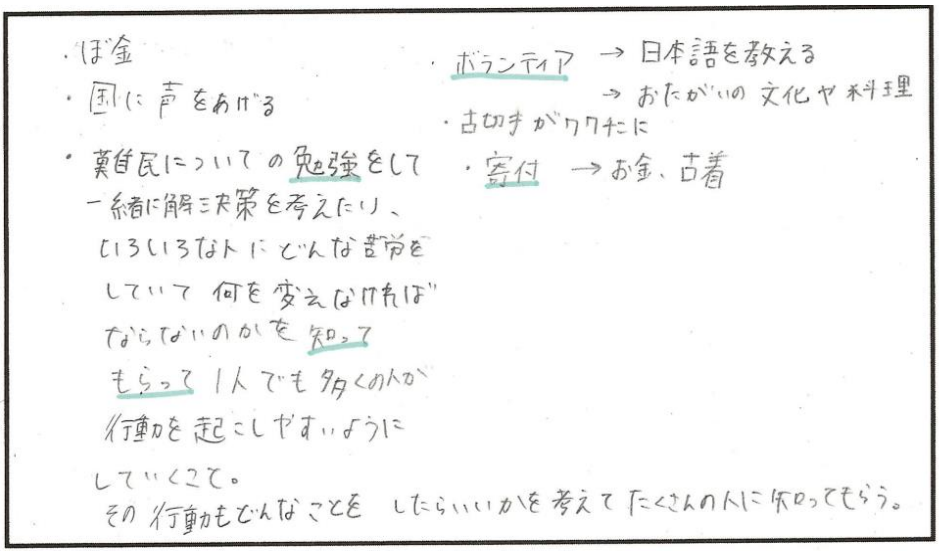
国際理解教育担当の先生と連携しながら、今後どのような形で学習を進めていくか話し合う。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

教員のための SDGs 研修授業実践報告会の実施

【自己評価】

11. 苦労した点	・教科書の内容と研修で得た知見を関連付けた授業づくり ・クルド難民問題について、どのように導入するか ・クルド人や難民問題についてどのくらいまで掘り下げて扱うか ・ジグソー法を用いた学びあいで使用するワークシートの作成
12. 改善点	・クルド難民について、もう少し学びを深める時間が必要だった。 ・本時では、授業者との Zoom 接続の問題により、生徒と授業者の質疑応答の時間を十分にとることができなかった。
13. 成果が出た点	・クルド難民について、生徒一人ひとりが理解を深め、自分たちにどんなことができるのか、何をすべきなのか考えることができたこと。 ・生徒たちが自ら学習を進め、疑問や考えを共有するなど、主体的な活動にできたこと。 ・学習を進める中で、生徒の『気づき』が生まれ、それをグループ内で共有したり、それを疑問にし、次の学習につなげたりしていたこと。 ・当事者から実際に話を聴くことで、生徒一人ひとりがより身近な話題として捉えることができたこと。 ・生徒の感想から、クルド難民についてどう考えたか、人権とは何か、自分たちができることは何か、相手が求めていることは何か、など想像以上に生徒たちの思考が広がったこと。

14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	最終課題 1 回目『私たちにも可能な支援とはなにか』の記述では、募金や物資の支援をすると書く生徒が多く見られた。 ・募金する。 ・難民として受け入れてあげる。 ・古着や使わなくなったものを送ってあげる。 ・難民としてではなく、1 人の人間の人権を保護するという形で受け入れる ・まずは彼らの現状について知り、一緒に解決策を考え、それを周りにも伝えていく。 －生徒記述より－ **最終課題記述（1 回目）**  メリット、デメリットをふまえた中でのたいさくを考える。受け入れてくれる国へおくりだす。各国に、難民を保護するしせつを作る。日本が、難民申請のルールを守ればいい。 人としての人権を守り保護する。クルド人を難民としてでなく、国から差別された人々として、人権を守るという形で日本で保護する。  ・ボランティア → 日本語を教える → おたがいの文化や料理 ・古切手がワクチンに ・寄付 → お金、古着 ・ぼ金 ・国に声をあげる ・難民についての勉強をして一緒に解決策を考えたり、いろいろなトにどんな苦労をしていて何を変えなければならないのかを知ってもらって1人でも多くの人が行動を起こしやすいようにしていくこと。 その行動もどんなことをしたらいいかを考えてたくさんの人に知ってもらう。 最終課題２回目『私たちにできることはなにか』では、大学生講師の話を聞いたうえで課題に取り組んだ。その中で、募金など形ある支援も大切だが、クルド人の人々の現状を知ることや交流すること、1 人の人間として接することが彼らの願いであることに気づいた生徒が多く見られた。 ・どんな支援が必要か相手に聞く。 ・お互いの国の文化を知る。 ・クルドの人たちと交流する場をつくる。 ・難民問題や入管について、もっと多くの人に知ってもらう。 －生徒記述より－

最終課題記述（2 回目・大学生講師から話を聞いたあと）

・タシさんの言っていたように、クルドの人たちと仲良くする。
・食料や経済的なところを支援する。
・クルドの文化に触れてみる。
・お話を聞いて、今の日本の現状を受け止める。

話を聞いて、改めてこの課題解決のために何ができるのか考えてみよう！

支援より、交流する。話しあう。クルド人などの難民の人たちと、重い話しなしで、話しあいたい。日本のことをもっとしってもらえるような会を開いてみたい。文化の面で向えあう。自分たち以外にも、1.3年などの多くの人たちに、日本でクルド人のような人たちがいることをおしえたい。

○クルドの人たちとの交流
○クルドの人たちに話しかける
○お互いの文化を知る。
○日本語を教える

生徒の感想より

«この授業を通して学んだこと・わかったこと・感想»

自分たちが毎日のようにご飯が食べれて、学校に行っているそのことをあたり前だと思っていたけどクルド人の人たちみたいに、自分たちが出来ているあたり前のことがあたり前に出来ない人たちもいるとわかった。このことを知っておきたい。

«この授業を通して学んだこと・わかったこと・感想»

デニズさんの動画を見たり、タミさんのお話を聞いて、人権は誰にでもあるものだよ とかいうのはどこに行ったんだろうと思った。すごく矛盾しているなと思った。私の姉も、日本の難民認定は厳しいとか言っていて、本当にその通りだなと思った。この学習を通して、難民として日本にやってくる外国人は、母国にも帰れず、不安な生活を日本で送っているということがわかった。

日本でも、入管などにとめられ、厳しい処分を受けたりしている人がいる。そして、その人たちは、自由とは言えない環境で生きている。仮放免で、働けない、でもお金がないと生活できない。この授業を通してそういうことを知れた。そもそも、クルド人という人々をしらなかった。自分たちでもできることが、クルド人の生活を知って、難民の見方とそれに対する日本の見方が180°かわった。でも、そんな中でも、楽しみながら日本と交流し、生きているので、クルド人はとても強い人たちだと思った。生活の中で、自分たちが、こういう生活をできているのは普通のことではないとしったし、他の人(クルド人)たちが、苦しい生活をしてるとしった。もっと多くの難民が差別を受けてきたえたちへの支援ができることを考えたり、実行してみたい。クルド人以外の難民のこともしりたい。

15. 授業者による自由記述	今回、クルド難民というテーマについて、生徒がどこまで関心を持ってくれるか不安な部分があった。しかし授業が始まると、自分たちで主体的に学習し、クルドの文化や彼らの歴史、生活、現状など多角的に知ろうとする姿が見られた。 授業の最後には、募金や物を送るなど、なにかを支援するだけではなく、『お互いのニーズを確認することが大切』『まずは知ることから始めるべき』という考えを持つ生徒もいた。今回の学習全体を通して、生徒一人ひとりが、国際理解・国際協力のあり方を知り、より身近なものとして捉えられたのではないかと思う。 今後は、クラスや学年だけではなく、学校全体で学び、考えを共有し、自分たちにはどんなことができるのか一緒に考えていきたい。 最後に、私自身も多くのことを学ぶことができました。研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。

使用した教科書・単元名：SunShine「Friendship beyond Time and Borders」

参考資料：

ジョン・キング『世界の先住民②いまはわたしの国といえない』（1995 年）

小林　正典『難民が生まれるのはなぜ？』（2002 年）

ﾛﾑ・ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ『ニュースの意味がまるまるわかる　世界の民族・宗教のこと』（2004 年）

坂本　勉『新版　トルコ民族の世界史』（2006 年）

滝澤　三郎『難民を知るための基礎知識』（2017 年）

山口　昭彦『クルド人を知るための 55 章』（2019 年）

木下　理仁『国籍の？がわかる本　日本人ってだれのこと？外国人ってだれのこと？』（2019 年）

乾　英理子『論創ノンフィクション 011　クルドの夢　ペルーの夢―日本で暮らす難民・移民と入管制度―』（2021 年）

授業で使用したワークシート

グループ A：難民とはどのような人々？

組　番　氏名

①難民とはどんな人たち？

②難民の人々はどこにいるの？

③日本に難民はいるの？

グループ B：クルド人の国はどこ？

組　番　氏名

①クルド人は国を持っている？

②もともとはどこに住んでいた？

③現在はどこに住んでいるの？

グループ C：日本での生活は？

組　番　氏名

①日本での暮らし、良い（暮らしやすい）ところは？

②日本での暮らし、大変なことは？

グループ D：クルドの文化、なにがある？

組　番　氏名

①クルド人の人々の生活は？

②食べ物や伝統品はある？

グループ A：難民とはどのような人々？

組　　番　氏名

①難民とはどんな人たち？

②難民の人々はどこにいるの？

③日本に難民はいるの？

グループ B：クルド人の国はどこ？

組　　番　氏名

①クルド人は国を持っている？

②もともとはどこに住んでいた？

③現在はどこに住んでいるの？

グループＣ：日本での生活は？

組　　番　氏名

①日本での暮らし、良い（暮らしやすい）ところは？

②日本での暮らし、大変なことは？

③なぜ日本での生活を選んだのかな？

グループＤ：クルドの文化、なにがある？

組　　番　氏名

①クルド人の人々の生活は？

②食べ物や伝統品はある？

③言語はなんだろう？

グループ A・B 課題

『国土を失ったクルドの人々の生活は？』

組　　番　氏名

グループＣ・Ｄ課題

『クルドの文化を守りつつ、日本で生活する上で困難なことは？』

組　　番　氏名

最終課題

『私たちにも可能な支援とは？』

組　　番　氏名

«疑問に思ったこと。もやもやしたことを書いてみよう»

最終課題

『私たちにできることは？』

組　　番　氏名

話を聞いて、改めてこの課題解決のために何ができるのか考えてみよう！

«もやもや・疑問点・質問»

«この授業を通して学んだこと・わかったこと・感想»